

中国アクロチームがシンガポール・エアショーを直前にキャンセル

漢和防務評論 20140425（抄訳）

アクロチームの直前キャンセルに見る中国空軍の後進性

阿部信行

（訳者コメント）

2月に行われたシンガポール・エアショーで中国空軍アクロバットチーム「八一飛行表演隊」が参加予定を直前にキャンセルしました。その理由が西側空軍には理解できない内容です。

中国空軍は、シンガポール側に参加の条件を提示したのですが、それは八一飛行隊のパイロットは英語が解らないので、八一飛行隊の地上指揮要員をシンガポール空軍基地の管制塔に入れて八一飛行隊の J-10 戦闘機を誘導着陸させてほしい、というものでした。

シンガポール空軍は、訓練に支障が出るので、外国人を管制塔に入れて誘導させることはできないと断ったところ、突然参加をキャンセルしたとのこと。八一飛行隊は、シンガポールに移動する間、タイ国で燃料補給をする予定で、タイ国空軍は準備をして待機していたところ、中国空軍は、参加キャンセルしたのち、何の連絡もしなかったということでタイ国空軍は憤慨しているとのこと。

中国空軍の訓練を西側の方式に近づけようとする動きはありますが、直ぐには出来ないようです。飛行訓練中は、地上指揮官の指揮に従い、緊急時を除きパイロットが現場で判断し行動することは許されていません。交信時の言葉は当然中国語であり、世界共通の管制用語は教育されていません。

極端な話ですが、中国ではパイロットがロストポジションすると、地上指揮官の責任になります。今回のエアショーにはシンガポール側が台湾国防部の高級官員を招待していたことも、ドタキャンの理由かも知れません。

KDR シンガポール平可夫特集記事：

シンガポール・エアショーの消息筋は、中国空軍の八一飛行表演隊（J-10 戦闘機によるアクロチーム）がエアショー参加にエントリーしていたが直前に取りやめたことを明らかにした。今年の八一隊は、スイス空軍建軍 100 周年活動への参加を決定している。八一表演隊がシンガポール・エアショーへの参加を取り消した理由は以下の通りである：最後の調整段階で、中国空軍は J-10 の着陸を支援するために地上指揮要員がシンガポール空軍基地に入れるよう要求した。その理由は、J-10 のパイロットは英語を聞き取れないからだと言う。八一隊の J-10 は、機上レーダーを搭載せず、航法は慣性航法装置と GPS 航法システムに

頼っている。これに対してシンガポール空軍は、中国空軍の要求をのめば、シンガポール空軍の訓練に影響がでると考えた。シンガポール空軍は外国人が自国の管制塔に入り誘導することを嫌った。中国は最終的に取り消さざるを得なかった。

その他の大きな問題は次の通り：八一隊は、シンガポールに移動する途中、タイ国で給油する計画であり、タイ国空軍は一切の準備を整えて待機していた。しかし八一隊がシンガポール行きを取り消した後、タイ国空軍への通知は一切なかった。

シンガポールが今回のエアショーに台湾国防部の高級官員を招待したので、政治的理由で八一隊の参加を取りやめたのかどうか、周囲の憶測を招いた。

アクロチームをエアショーに参加させるかどうかを一国の空軍が決めるのは、通常は正常な行為だ。しかし、英語が聞き取れないからとか、自国の指揮要員の誘導が無いと着陸できないというのは、確かに奇異に思う。21世紀の空軍パイロットで英語が聞き取れないものがあるだろうか？外国に飛ぶことはないのか？すでに空軍は、海軍に次いで国際的な軍種になっている。非英語圏空軍のパイロットも多国間の空軍訓練に参加しなければならないので、言語は不参加の理由にならない。例えばフランス空軍は、常にインドやその他の NATO 空軍と聯合演習を行っている。

台湾空軍の平時の訓練は、全て飛行英語を使用する。このほか、飛行表演隊の J-10 は、レーダーを降ろしているがこれは異常ではない。その他の国家のアクロ機もレーダーを搭載していない機がある。しかし今後頻繁に出国するようなことがあるならば、航法レーダーを装備していないと、悪天候に遭遇した場合、引き返せるだろうか？よく考える必要がある。

八一飛行表演隊のパイロットは英語が聞き取れないと言うことは、今後たとえ政治的条件が整ったとしても、先進国空軍とは聯合訓練演習が出来ないということだ。

以上